おじさんズ通信

発行は毎月１５日頃。バックナンバーは「おじさんズ」のホームページでどうぞ

２０２４年４月号（Ｎｏ４１）
発行元：登別市新生町
桃柿通　緑風舎
発行者：おじさんズ３号

緊急入院録

普通に息する有難さを知った

行って参りました、胸を病んでの入院・施術９日間の旅へ。まあ、何事もなかったかのように本通信４１号を出そうかなとも思ったのですが、今更隠し立てするような年齢でもなし。短期間ながら白い壁に囲まれた禁欲生活や、初体験の治療法、イテテ、イテテとうめきながらのトイレ通いなど、平穏なる生活から一転しての異空間に身を置いてみて、生きることとは何ぞや―と、問いただされた気がします。ご同輩の方もおられるので、この顛末記が多少なりとも、お役に立てば幸いです。元および現役愛煙家の皆々様、後学のために一読を。

肺がつぶれてる？

３月下旬、定期受診しているクリニックに駆け込むと、胸のレントゲン写真を見た若い医師が「片肺がつぶれてます。すぐ総合病院へ」と、紹介状を書いてくれました。ゼイゼイ、ハアハアの原因は「肺気胸（あるいは肺気腫）」。呼んだタクシー運転手が「私も以前２回、やりました」と明かす偶然。凶とも吉ともとれる、なにかツイテいる予感がしました。

入院して即、脇腹にチューブを挿入すると、肺から漏れて溜まっていた空気が「シューッ」と音を発しながら、めでたく外の世界へ放出され、こちらの呼吸も徐々に楽になってきました。ペシャンコになり復元不能のラグビーボールの空想図は消滅です。

それにしても、４人部屋のベッドが手術台とは。男性医師の指導のもと、メスを握った若い女医さんの、技術向上に一役買ったと思えば、痛みもなんのその。

病院食をソシャクする

何をするにも、チューブの先に取り付けられた四角いプラスチック製の箱と、一心同体の生活がスタートしました。まだ、肺の穴がふさがっていないため、大きく呼吸するたびに、箱の中の水がゴボゴボします。その箱を、おなじみの点滴スタンドにぶら下げ、ソロリソロリと自力でトイレへ。なぜか、相田みつをの「人間だもの」を口にしていました。

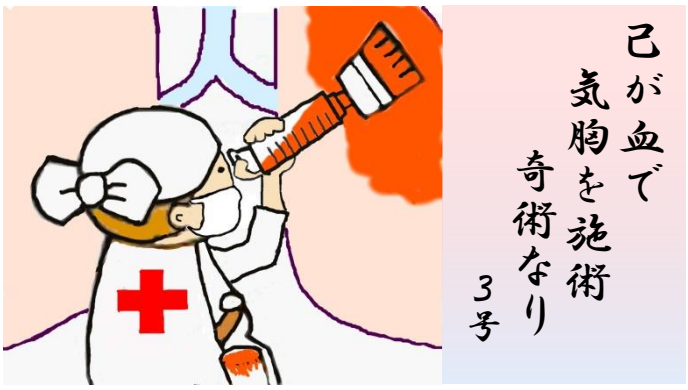
朝の２、３杯のコーヒーなし、たまのケーキもなし、晩御飯前のビールなしーの食生活が始まりました。食べログ代わりに、毎度のお膳をスマホでパチリ。一汁三菜が基本のようで納豆、紙パック牛乳、たまにふりかけ、肉は一、二度だけの食事です。満腹中枢を刺激しようと、一口放り込んで３０回噛むところを５０回に増やし、しっかりソシャクしました。これでも十分じゃないか、と言い聞かせつつ。１か月もこの生活が続いたら難なく２，３キロは痩せていたでしょう。

それにしても松花堂風弁当が出た時は、驚きとともに胃袋はもう欣喜雀躍していました。

穴閉じ作戦、成功

ブラッド・パッチなる、穴ふさぎ術を編み出した人は偉い。自分の血を注射器で抜き取り、チューブから患部に注入して回流させ、血糊で穴をふさぐ方法です。ただし３回限りで、ダメなら次は開胸手術です。

入院３日目、この作戦を開始しました。血液注入後、仰向けから横向き、反対向き、うつ伏せへと体位変えを１５分ずつ、２クール行いました。しかし、「ふさがれ、閉じろ」の念力は通じず失敗。意気消沈していたら、中堅の看護婦さんが「１回目ダメでも、２度目、３度目でふさがる人もいるんですよ」。その言葉に、なんと勇気づけられたこと。



そして、２日後の再トライで、ツッペ作戦は成功しました。廊下で出会った、あの看護師さんに「あなたの言ったとおり、２回目で」と告げると、わがことのように喜んでくれました。ナイチンゲールの精神、今も脈々と、です。

ゆっくり生きよう

ということで、１か月は覚悟した突然の入院生活は９日間で幕となり無事、白亜の棟からの放免となりました。なんと悪運が強いこと。

根本原因はタバコ。５５歳でやめましたが、因果応報です。再発防止策は力仕事を避ける、トイレで力まない。これからは、もう運を天にまかせ、ゆったり、のんびり生きるのが一番のようです。

「大ニュースよ」とカミさんが

買い物から帰ってきたカミさんが「今年一番の大ニュース」と興奮気味に「帰ってきた魚屋さん」のことを報告しました。

家から歩いて１５分ほどの所にあったスーパーマーケットが閉店して２、３年になりますか。そこにテナントとして入っていた魚屋さんの店頭に並ぶ魚介類が、新鮮かつ安く、ボリューム満点。家族で１Ｄａｙシェフの店をやっていたころ、食材調達で非常に助かりました。

その「うおよし」さんが、元スーパーの近くに店を開きました。オープンは去年の夏とかで、「もっと早く知っていれば…」ですが、早速、クロガレイやサバ、鮭やズワイガニ、サーモンを購入。ズワイガニは小ぶりながら、ゆでた後、シコシコ殻むきすると、身は皿に小山状態に。入院前日の海の幸堪能の晩餐となりました。（店は新生町１丁目三敬堂書店の隣です）

上映会案内

劇場拡大版「ヤジと民主主義」

5 月 19 日（日）14:00 開場 14:30 上映
室蘭市民会館　前売 1200 円当日 1400 円

主催：西胆振名画を観る会（☎090-9750-0620　堀岡）

グッドバイ、アンプ君

かれこれ４０年以上の付き合いになるTechnicsのプリ・メイン一体型アンプに、グッドバイすることになりました。レコード鑑賞だけでなく、室蘭での演劇公演で音響効果に使った代物ですが、いい音を出していたんですよ。しかし、ここ数年来、片側のラインの出力がへたってしまい、ボリュウムのつまみを回すとガリ音が出るため、中古品に買い替えることにしました。

基盤に目を凝らしてコンデンサのパンクなどをチェックする気力は、もうありません。代替え品探しも大変です。それにしても、洗濯機といい、オーブンといい、そしてこの音響装置といい、昔のものは寿命が長い。今は部品の在庫５年、１０年の時代とか。もっとも、あまり長持ちするとメーカーも食べていけなくなります。痛し痒しですなあ～。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

窓越しに、見てるんニャン

エサを与えているわけでもないのに、近くに根城があるらしい二匹の野良猫がほぼ毎朝、隣地の資材置き場にある小屋の上にのぼり、台所の窓ガラス越しに我が家の中をのぞいています。

春夏秋冬、ほぼ欠かさず登場する彼ら、彼女らがいるのは３０分程度。ヒト恋しくて、こちらを見ているのか、それとも「この家の住人、ずいぶん冷たいね」

と、ボヤいているのか、いずれにせよ、こっちが檻の中にいて、観察されている気分です。

生後１年で大人になるという猫。成長具合の経過観察から、右の真っ黒ちゃんが子供で左が産みの親とか。おばあちゃん猫は、いつしか現れなくなりました。

薫風　烈風

▶演説にヤジは付き物。国会をごらんなさい。代議士先生たちのヤジが議場に飛び交っています。

「安倍ヤメロ！」と叫んだ男性を、たちまちのうち取り囲み排除する警察官たち。時の政権におもねる警察組織の暗部が透けて見えます。あの男性の声、野次というより、簡潔なる主張だったのでは。

▶飛行機に同乗した大物演歌歌手のツイートがなかったらマスコミ騒ぎも起きず、あの自民党議員は臆面もなく道庁や札幌市の職員を呼びつけて、パワハラ行為を続けていたでしょう。「志士魂、いつのまにやら殿様に」の嘆かわしさ。彼らは今も、昭和の特権意識を引きづっているようです。

▶「ふさいだ穴が再び、開くこともあります」との医師の言葉が、クシャミをするたびによみがえり、恐る恐る深呼吸しては一安心。桜を楽しむ余裕ありや、なしや。では皆さん、お元気で～。